

令和7年度第2回大船渡市行政改革懇談会議事録

■開催の日時及び場所

- (1) 日時 令和7年11月27日(木) 午前10時～11時20分
- (2) 場所 大船渡市役所 地階大会議室

■委員数 16人

■出席者

- (1) 委員9人(欠席7人)

菊池義和、刈谷忠、熊谷立志、大和田洋太郎、上関みさ、
佐々木好子、白崎陽彦、鎌田志穂子、那須雪子

- (2) 市職員15人

教育長 小松伸也、企画政策部長 松川伸一、総務部長 新沼晶彦
協働まちづくり部長 佐々木義和、市民生活部長 安居清隆
保健福祉部長 藤原秀樹、商工港湾部長 富澤武弥、農林水産部長 山岸健悦郎
都市整備部長 長岩智徳、上下水道部長 今野稔、教育次長 山口浩雅
企画調整課長 阿部貴俊、総務課長 佐々木崇、財政課長補佐 鈴木文武
港湾振興課長 大和田達也

- (3) 事務局4人

企画調整課課長補佐 佐藤大基、係長 志田拓也、主任 後藤俊太、
主事 清水紀希

■議事の経過

1 開会(企画政策部長)

2 協議

大船渡市行政改革懇談会設置要綱第5の規定に基づき、刈谷忠会長により進行
大船渡市総合計画前期基本計画の施策・基本事業評価について

施策16、17、21、23について、資料3及び4により企画調整課長から説明

【質疑等】

「施策16 交通・港湾物流ネットワークの充実」

○刈谷忠会長

国際フィーダーコンテナの今後の見通しについて、教えていただきたい。

⇒港湾振興課長

近年のコンテナ取扱量は、増加傾向であり、2年連続で過去最高を記録している。

現在は、大口の荷物が大半を占めているので、利用企業数を増やすため、セミナー やポートセールス等を行っていきたいと考えている。

○大和田洋太郎委員

三陸鉄道の利用者数は横ばいであり、今後もこの状況が続くと考えられるが、方針を伺いたい。

⇒港湾振興課長

人口減少に伴い、地元住民の利用が減少傾向である。

久慈～大船渡までの広域の移動手段として重要であると考えており、みちのく潮風トレイル等で、市外から当市を訪れる人は増加している。また、様々な企画を行い、利用者を増やす取組みもしている。

乗車料金の値上げも予定されており、経営状況を考えながら、三陸鉄道を守っていきたい。

⇒大和田洋太郎委員

ガソリン暫定税率の廃止もあるため、乗車料金を値上げすると利用者が減少してしまうのではないか。

⇒港湾振興課長

地元住民の定期利用や利用券は、あまり値上げせず、旅行者の乗車料金を値上げする方向で検討しており、地元住民の負担にならないように進めている。

○鎌田志穂子委員

通学で三陸鉄道やBRT、路線バスを利用している学生は、特に帰りの時間帯で、乗り継ぎの接続が悪く、不便である。

乗り継ぎに係るアンケート等は行っていないのか。

⇒港湾振興課長

市で公共交通計画を策定しており、アンケートも実施している。

様々な意見があったので、各公共交通機関に共有するとともに、ダイヤの見直しを求めている。

○白崎陽彦委員

中学校の部活動の地域クラブへの移行を進めていく中で、中学生が公共交通機関を利用できれば、送迎が不要になり、親の負担も減るのではないか。

⇒港湾振興課長

活動拠点が不確定な部分もあるので、それが見えてきた段階での協議となると思う。

今年度は、東朋中学校の3年生を対象に、三陸鉄道の乗り方教室を行い、今後は、管内高校の体験入学のときに、公共交通機関を利用してもらえるような取組みも検討しているので、通学での利用者を増やせるよう工夫したい。

⇒白崎陽彦委員

活動拠点が決まっていないからできないではなく、部活動のときに公共交通機関を利用できることを市民に伝えることで、部活動を行うきっかけになると思うので、早めの対応をお願いしたい。

⇒教育次長

部活動等での公共交通機関の利用も含めて、総合的に早めに検討等したい。

「施策 17 自然災害対策の推進」

○鎌田志穂子委員

避難訓練の参加率が低下しており、防災学習ネットワークの取組みを活用して増やすという方針だが、中学校で行っている避難所運営を避難訓練で行うのはどうか。

⇒総務部長

自主防災組織の研修会での協議の際に、子どもたちの参加も含めて検討したい。
子どもたちの参加も大切だが、子どもたちが運営することが重要だと考えている。
子どもだけでなく、親の防災に対する意識の向上にもつながると思うので、多角的に検討したい。

○大和田洋太郎委員

震災後、海岸付近に住宅を建てられなくなったことで、住民の危機感がなくなっているのではないかと懸念している。

⇒総務部長

今年度は、津波の避難訓練だったが、昨今は土砂災害の頻発化や激甚化してきているため、そういういた避難訓練も行っていく。

「施策 21 廃棄物処理対策の推進」

○上関みさ委員

ペットボトルの回収が、月1回だけだと、溜まってしまって大変である。回収の頻度を増やすことを検討していただきたい。

⇒市民生活部長

ごみの再資源化には費用がかかるため、市民の声を聞きながら慎重に検討したいと考えである。

○菊池義和委員

不法投棄の通報数が減少傾向にあるが、通報を受けた際は、市ではどのような対応をしているのか。

⇒市民生活部長

原則として、不法投棄物の処理は原因者が行い、特定できない場合は土地の管理者が対応することになる。

市民から通報があった際は、職員が現場でごみの種類を確認し、市が処理すべきものは直接回収している。また、衛生監視員が見つけた場合も、その場で回収することがある。

不法投棄があった場所への看板や網等を設置するなど、再発防止にも努めている。

○鎌田志穂子委員

市民一人当たりのごみの排出量について、スーパーマーケットや大船渡資源で回収している量も含めるべきではないか。

⇒市民生活部長

スーパーマーケットの回収量を把握するのは難しく、大船渡資源についても、市で取り扱った分しか把握しておらず、ごみが多種多様であるため、把握するのは困難である。

○鎌田志穂子委員

生ごみ処理機の購入補助制度の効果は表われているのか。

⇒市民生活部長

年間約2、3台のペースで利用されている。

効果を検証するのは難しいが、普及促進のために行っている。

⇒上関みさ委員

購入場所について、インターネットでの購入は対象外であると聞いたが、条件はどのようなものか。

⇒市民生活部長

複合的効果として市内の経済を回すために、市内で購入いただきたい。

○佐々木好子委員

ごみステーションの場所を変えることはできないのか。

⇒市民生活部長

ごみステーションは市ではなく、各地域で設置している。ごみ収集車が停車しても交通の妨げにならない場所等に設置いただいているが、土地の所有者が変えたいということであれば、地域に相談していただきたい。

「施策23 質の高い行財政運営の推進」

○白崎陽彦委員

大船渡市でもSNSの活用が進んでいるが、クマの出没等の時間外の発信の対応はどのようにしているのか。

⇒企画調整課長

クマの出没に関しては、消防署が行っている。

何か事案が発生した際に、SNS発信のみで勤務することは基本的ないと考えている。

⇒白崎陽彦委員

例えば、佐々木朗希選手の活躍等、旬な情報を発信するときもあると思う。

⇒企画調整課長

基本的には、勤務時間内での発信としているが、先ほどの例のような佐々木朗希選手の活躍等は、個人の端末から発信することもある。

○上関みさ委員

ふるさと納税の寄附額が順調に伸びているが、どのような取組みを行っているのか。また、どのような品目があるのか。

⇒企画調整課長

市のみならず、企業、商工会議所、中間委託事業者で協力し、「返礼品を提供する

事業者を増やす」、「既存事業者に返礼品を増やしていただけるよう、直接会ってお話ををする」、「見やすいホームページの作成」、「効果的な広告運用」等を行っている。

当市の目玉返礼品は、海産物である。今後は、通年で対応できる返礼品の中から目玉返礼品を出したいと考えている。

○刈谷忠会長

市税の滞納額はどれくらいか。

⇒総務部長

令和6年度の決算状況をホームページに掲載しているので、そちらを確認いただきたい。

3 その他

○熊谷立志委員

市の純粋な観光予算はいくらか。

岩手県は東北でも最下位なので、もっと観光に力を入れていただきたい。

⇒商工港湾部長

令和6年度実績で約1億円である。

観光拠点の整備をはじめ、宿泊先、飲食店と連携するなどにより、関係人口を増やしていきたいと考えている。

4 閉会（企画政策部長）